



# 市保連 だより

2011  
(1月)

[第404号]

平成23年1月1日発行  
社団法人 熊本市保育園連盟  
広報委員会  
発行責任者 重岡 啓一  
〒860-0806 熊本市花畑町3-1  
熊本市花畑別館3F  
TEL (096) 322-0096  
委員長 清永 ヤヨヒ  
委員 鬼塚 静波  
委員 建川 美徳  
委員 村川 惠逸  
委員 平川 裕季子  
委員 伊形 けい子  
委員 石井 福栄  
委員 石角 奈二郎



特別寄稿

## 遊びの持つ役割と子どもの成長

熊本市子育てホットサポーター 大津山 琢

熊本市の子育てホットサポーター制度が発足して丸四年になります。以前から子ども達の遊びについて色々触れていましたが近年、気になることがいくつか見られ始めています。

人間も動物の一員であること、動物が持っている危険回避能力、瞬間的動作反応等が極めて鈍くなってきている様に思います。転んだときにとっさに手をつけない、顔を怪我をする、手足を簡単に骨折する等の身体的な面と自己中心的環境、対人関係、他人を思いやる心など私達大人が心しなければならぬことが沢山見られます。

遊びを通して子ども達が身につけることと遊びの持つ役割について考えてみたいと思います。

「本物探し！」子育ては毎日毎日大変なこと、思いもつかない事が次から次にと起こってきます。大人の論理・生活の中では「その場のクリアー」で一件落着かかもしれませんが、子育ての中では手近なところでの解決はこれから数十年生きて行く子ども達にとってプラスとはならず逆にマイナスに働くことも多々ある様に思います。

「本物探し！」言葉を換えて言えば「納得できる心を持つ」ことでしょうか。実はこれがなかなか大変な事です。時間はかかるし、面倒だし、自分の心を押さえないといけないし、相手との意見の衝突もあるしなど何個ものハードルがあります。

親の立場ではすぐに手を貸して子どもの心を満たすことが早道ですが、「待てよ?」「これで良いのかな?」とそこでしばし考えて欲しいの

です。子ども達はしばしば失敗をします。当たり前です。子どもなのですから、だって私達大人も心の中で「しまった!」と思うことが一日に何回かはあるでしょう。

自分の心、頭で越えることができた失敗については子ども達は二度と間違いをしません。周りの大人から指摘、注意された間違いについてはその後も繰り返すことが間々あるものです。

さて幼児期の子育ての中で「形から入って欲しいこと」と「心から入って欲しいこと」があります。前者はある年齢になったら「おハシで食事をすること」後者は「ごめんなさい」「ありがとうございます」の言葉です。おハシを正しく使えること、指を使って物を持つ、握る、つかむ、結ぶ、回す、ほどく、投げるなどの行動、動作は色んな遊びの中に随所に見られることです。このことがひいては脳の働きを活性化させて、考えることのできる人間を作り出してくれるでしょう。

「ごめんなさい」「ありがとうございます」の言葉は心の発露として発せられる言葉だと思えます。レシピ上の「謝り」と「感謝」ではなく相手の心に届く言葉でありたいものです。

いずれにせよ、遊びを通じてフィジカルな部分やメンタルな部分、社会性、協調性が培われることは言うまでもありません。

これからも子育ては永遠に続きます。本物を求めて頑張っ行って続けたいと思います。





保育士会

## 「せんせーだーいすき」の声に励まされて

出水南保育園 保育士 中島若葉

“ぎゅーっ”これが毎日の日課です。私は今、二才児の子どもたちと毎日楽しくすごしています。

帰りの挨拶が終わると、子どもたちが「せんせーまた明日ねー」「せんせーだーいすき」と私の胸にとびこんでくれます。

私は子どもが大好きで、小さい頃から保育士をしていた母の姿を見ていたこともあり、いつしか私も保育士になりたいと思うようになっていました。その夢が叶い、保育士になって三年が経とうとしています。

三年前、保育の仕事をはじめて分からない事ばかりで、不安になる事もたくさんありました。でもそんな時、先輩保育士や母のアドバイスをも



らったり、翌日保育園に行くと子どもたちの元気な声に励まされ、保育の仕事が続けてくる事が出来ました。

また、この仕事は子どもたちの成長を日々感じる事が出来ます。昨日まで使えなかった箸が使えるようになったり、一人で着替えることが出来るようになっていたり…そんな場面に出会うと、保護者の方と共に感動をわかち合い、嬉しくなると同時に自分自身も元気がでてやりがいを感じます。

これからも笑顔で毎日を過ごし、子どもたちのことを1番に考え、たくさんの愛情をそそいで保育していきたいと思っています。

私は今、大好きな子どもたち、同僚に囲まれ仕事をしていく事に、幸せを感じています。



調理師会

## 子ども達の笑顔と共に

出水南保育園 調理師 吉岡登志江

「今日の給食は何？おやつは～」子ども達の元気な声と共に給食室の朝は慌ただしく始まります。当園は今年度3年目を迎え、まだまだ試行錯誤の中、食育にも少しずつ取り組んでいます。玉ねぎ収穫や芋ほり、クッキー作りの他タパストリーによる食育も行っています。又、今年度は新たに干たくわん作りに挑戦したいと思います。「三つ子の魂百まで」と言われる様に食育の観点からも小さいうちにどれだけ多くの食材や料理に触れたかで味覚形成の基礎に違いが出てきます。給食を通して行う食育はイベント的食育ではなく、日常の保育の中で提供する食事そのものを食育の教材として捉え、おいしく、たのしくが必要条件だと思います。私はその大事な時期に調理師として関わる



事に責任を感じ、又、子ども達の笑顔やふれあいの中で喜びを感じながら仕事をしています。

今、新保育制度が論議される中、保育時間の問題で一律に子ども達の生活リズムをつくるのが難しくなったり、行事や食育に影響しないかと心配です。格差保育が生じ、平等な給食提供や給食室の存続も危ぶまれます。何よりも保護者が安心して預けられ、子ども達が健やかに育つ様に現行の制度を維持して頂きたいと願っています。

これからの抱負として、地域の伝承料理や行事食に取り組み、保育士、保護者、地域の方と連携を図りながら食育を広げられたらと思います。まずは安心、安全、おいしいの基本を忘れず愛情いっぱいの給食を作って行きたいと思っています。



園長会

# 心を繋ぐ・命を繋ぐ

第二桜ヶ丘保育園 園長 藤院 玲子

『悲しみ癒えた園児の贈り物』という見出しで新聞に掲載されたのは、数年前のお正月も明けた頃でした。年末に熊本駅の改札口で、交通キャンペーンを行い「命を大切に」と書いた手作りプレゼントを当園児から受け取った一人の女性からの投稿だった。『母の葬儀の為山口から帰省し駅に降り立つと、園児達の元気な声が届き、悲しみの思いが少し癒された気持ちになった。お礼を言いたく熊本駅止め駅長様宛に手紙を書き、園宛の手紙を同封した。駅長様が保育園に届けてくださり、先生と子ども達から返事が届いた。その手紙にまた元気づけられ、涙ながらに読ませてもらった。悲しみを癒してくれた元気プレゼントを大事にします。ありがとう。駅長様もありがとう。』という内容だった。

園への手紙には亡くなったお母様への思いを通して命の尊さ、大切さを子ども達に伝えるた

めの、温かい言葉がしたためられていた。相手を思いやる心と多くの方の支えがあって心が繋がった。そんな出会いでした。私達が今こうして生きていられるのは、たくさんの尊い命をいただき、数限りない先祖の思い、願いが届いて命が繋がっている。子ども達にはこれから色々な経験を通して、泣いたり笑ったり、怒ったり喜んだり、人の悲しみのわかる人になってほしい。命の大切さ、思いやりの心、そして「ひとりじゃないんだよ」ということを伝えていきたい。



## 1月の予定

会合	ブロック	日	時間	会場	研修内容
保育士・調理師 合同研修会		22(土)	14:00 ~17:00	国際交流会館	「子どもの豊かな育ちと食」 講師：ルーテル学院大学客員教授 大畑 誠也氏
リーダー保育士研修会 (5ブロック合同 主任研修会兼務)		29(土)	14:00 ~17:00	国際交流会館	「新保育制度について」 講師：鹿児島大学教授 伊藤 修平氏
調理師役員会		6(木)	14:00 ~17:00	熊本市国際交流会館	
調理師会 ブロック 研修会	東 部	20(木)	14:00 ~17:00	東部市民 センター	「各園持ち寄り調理実習」 広福保育園・第二エンゼル保育園
	西 部	13(木)	14:00 ~17:00	西部市民 センター	「各園持ち寄り調理実習」 芳野保育園・モロナイ保育園・松尾保育園
	南 部	13(木)	14:00 ~17:00	南部市民 センター	「出前講座(廃油石鹸作り)」 講師：熊本市生涯学習センター
	北 部	13(木)	14:00 ~17:00	清水市民 センター	「各園持ち寄り調理実習」 まんごく保育園・武蔵ヶ丘保育園・むつみ保育園
	中 央	13(木)	14:00 ~17:00	大江市民 センター	「各園持ち寄り調理実習」 第二桜ヶ丘保育園・千草保育園 「離乳食のお話」 講師：尚綱大学短期大学部 食物栄養学科 助教 秋吉 澄子氏
理 事 会		12(水)	14:00 ~17:00	熊本市国際交流会館	3F 国際会議室
園 長 会		27(木)	14:00 ~17:00	KKRホテル熊本	1F 有明・不知火
新 年 会		27(木)	17:40~	KKRホテル熊本	2F 城 彩

ご結婚おめでとうございます

□ 力合さくら保育園 12月12日  
保育士 岩下 育子(旧姓 穴見)



園長会

## 育つ喜び 育てる喜び 生きる喜び

喜育保育園 園長 村上孝継

喜育保育園は1970年創立。今年で41年目を迎えました。喜育保育園の喜育とは、人が喜び育つようにという願いを込めて命名されました。保育園に通う子どもは育つ喜びを、保護者の皆さんは育てる喜びを、そして、そこに集う人は、生きる喜びを感じられるような保育園でありたいと願っています。

私自身の子ども時代を振り返ると、野山に出て遊んだり、川で泳いだり、魚をとったりしたことが一番の思い出になっています。保育園長となり、子どもが育つ保育環境を考える時、当時の思い出が原点にあります。子どもには、心躍る遊びや冒険が必要だと思い、現在の保育園を作りました。

保育園には、ニワトリ、犬、猫、金魚、亀、メダカなどの動物がいます。庭には、実のなる木をたくさん植えました。畑では、季節ごとの

野菜が収穫できます。昭和30年代の田舎の風景をそのまま、保育の環境として毎日過ごしています。

五感を刺激

する生活体験重視の暮らし(保育)は、子どもたちはもとより、若い保育者たちも、発見や学びがあり、保護者の皆さんにとっても新鮮な体験の場ともなっているようです。

育つ喜び、育てる喜び、生きる喜びのある保育環境を充実させることは、保育園にかかわる人たち全部が、心も身体も元気になることにもつながるのではないかと考えています。



園長会

## 食育活動の一環として

城南ふたば保育園 園長 河崎清治

あけましておめでとうございます。

城南町が熊本市に合併して、はじめての新しい年を迎えました。当保育園は緑川の釈迦堂橋近くの、のどかな田園地帯に位置しております。よろしくお願い致します。

毎年子ども達は食育活動の一環として園の近くの畑を借りて春には野菜のたねをまいたり苗を植え、水かけ等をしながら花が咲き実をつけ、収穫まで力を合わせて頑張っています。自分達で育てた野菜を使ってクッキングをする事で家では食べなかった野菜も食べる様になったと嬉しい事もあります。

昨年六月下旬地域の農家の方の御協力で年長組が田植えを体験させていただきました。園児達は植え方を教えてもらった後、水田に入り水の冷たさや泥のぬるぬるした感触など初体験しました。

毎日食べているごはんの苗を植えた事で農業の大切さを体験を通して学ぶと共に食の大切さも学ぶ事が出来ました。秋には親子で初めての稲刈体験で新しい鎌を手に田んぼへ、手をケガしないかハラハラしながら見守り一緒に稲刈をしました。稲刈の後用意してあった新米でおにぎりを作ってもらい皆で食べました。その新米のおにぎりのおいしかったこと、子ども達はニコニコ顔でおかわりをして食べました。

今後も地域の中の保育園として、地域との交流を通じ食育の大切さを育てて行きたいと思っています。

